

深遠なる知見の歌といわれるもの：『母を認識する知見の歌』

エマホー！

1

驚くべき深遠なる縁起の真実を、  
あるがままに明らかにした〔根本の〕ラマ（ダライ・ラマ7世ケルサン・ギャツォ）よ、  
そのご恩は計り知れず、〔永遠に〕私の心の中に留まっていてくださいますように  
思い出したことを湧き出るままに、二、三の言葉にして述べよう

2

年老いた〈母〉を長い間見捨てていた  
狂気の息子である私はどうかして、  
恩深き年老いた〈母〉と共に過ごしていながらも、  
認識できなかったその人にもうすぐ会えることだろう  
縁起という〈兄〉が秘密裏に語ってくれたことにより、  
〔一切の事物の〕ほとんどはそうであり、〔一切の事物の〕ほとんどはそうでなく、  
〔固有の実体に依って存在しているのではない〕とは一体どういうことかと思った

3

この様々な主体と客体は〈母〉の微笑みであり、  
この生死と移ろいは〈母〉の偽りの言葉である  
欺くことのない〈母〉に私は欺かれた  
〈兄〉であるこの縁起が守ってくれることを願っている

4

その一方では、年老いた〈母〉のみの恩により、  
解脱することを願っている  
主体と客体のありようがこのようであるならば、  
三世におわす勝利者たちでさえ、守護する方法はない

5

この様々な変化は、移ろうことのない〈母〉の現われなのだから、  
解脱は可能である

6

どんなものとしても存在せず、言葉で表現できない〔私の〕〈母〉は、  
すべての色<sup>しき</sup>（物質的存在）の中にどんなものとしても存在していない  
この〔空と色<sup>しき</sup>という〕相互依存だけを理解するべきである  
年老いた〈父〉を探しても見つからないのは、  
年老いた〈母〉を見つけたからであり、  
〈母〉の膝に年老いた〈父〉を見つけた  
〔それが〕恩ある〈父〉と〈母〉が〈息子〉〔の私〕を守ってくれた方法である、と言われた

7

〔明らかに〕ひとつではなく、複数のものでもない〈母〉の顔が、  
〈兄〉である縁起という鏡の中に、  
捉えられないものとしてずっと存在しているように見える  
〔しかし、〕狂人のような私にはそれを調べる手がかりは何もない

8

ナーガールジュナ（龍樹）とチャンドラキールティ（月称）はその遺言を風に託され、  
文殊蔵はそれを一羽の鳥に託して送られた

〔私は<母>を〕 遠く広く探すことに疲れ果て、  
ずっとともにいる年老いた<母>に会えることを願っている

9

最近では明らかな知性を持つ〔学者たち〕が、  
それ自体の側から〔の成立〕、真実成立などの言葉のみに固執して、  
この揺れ動く現れをそのまま維持し、日常の堅固な現れをそのまま残しつつ、  
否定対象となる角を持つ生き物を探しているように見える

隠されていない<母>の顔には、  
そのような明らかな二元性は見つからない  
この微妙な点を貫くことなく、どれほど多くの説明をしたとしても、  
年老いた<母>はどこかへ消え去ってしまう

〔事物は〕存在するけれど、今はこれと同様に、  
存在するものとしては現れてこない  
しかし、<母>と<父>は無別のものとして、平和であり、  
ゆったりして、幸せであるように見える

10

毘婆沙師と経量部は、<母>なる象の石灰岩のような白い姿を、  
“外界の物質である斑模様の虎”と呼び、  
唯識派は“固有の主体となる脳のない狂った猿”と呼び、  
東方の三人の〔中観自立論証派の〕学者たちは、  
“不二の自立した存在である獐猛な熊”と呼び、  
様々な言葉でこの<母>に名前を与えているが、  
年老いた<母>を依然として見失っている

11

サキヤ派、ニンマ派、カルマ・カギユ派、ドゥクパ・カギユ派の多くの賢者や成就者たちは、  
光り輝く空性、捉え難い自証分、  
原初〔の時〕より清浄なる普賢菩薩のお顔、  
〔人為的に〕作られたものではない俱生のマハームドラー、  
有でもなく、無でもないといふいかなる観点をも離れたありようなど、  
様々な言葉で表現された話を誇らしげに語っているが、  
〔それらが〕あるがままの姿であるならよいけれど、  
指を指して示している〔その対象物〕は、一体何なのだろうか

12

〔私たちは〕外部対象を否定していないので、心配する必要はない  
〔ゆえに、実在論を主張する〕毘婆沙師と経量部の者たちは喜ぶべきである  
自己を認識する意識(自証分)が独立して存在することはないが、  
量（正しい根拠）によって対象を認識することは受け入れられるので、  
唯識派に従う者たちは皆喜ぶべきである  
〔一切の現象は〕自相による成立がなくても、  
縁起するものは〔相互に入り混じることなく〕様々に美しく現れるのだから、  
東方の3人の〔中観自立論証派の〕賢者たちは、皆喜ぶべきである  
明瞭さと空は矛盾しないと理解してよいので、  
伝授された教えの系譜を維持する者たち（サキヤ派の者）は小さな疑いさえ持つべきではない

しかし、〔一切法は〕原初の時より清らかであっても、  
善いものと悪いものが存在することは受け入れられるので、  
〔ニンマ派の〕墮落した持明者たちは〔自分は優れているという〕執着を持つべきではない  
意図的に瞑想しても、俱生の〔輝きであるマハームドラーは法身として〕立ち現れるため、  
〔カルマ・カギユ派とドゥクパ・カギユ派の〕理解ある長老たちは、無理強いする必要はない  
有と無という戯論を離れることを受け入れてよいのだから、  
石頭の論理学者たちは、思い悩む必要はない

13

しかし、仏典を学ぶことが少ない者たちは、  
言葉の使い方を知らないかもしれない  
私はあなた方に対する尊敬が足りないかも知れず、  
もし私が無礼なことをしたならば、どうか忍耐してください

14

あなた方が知っている通り、私は若くないけれど、  
祖先（ナーガールジュナ父子とジェ・ツオンカパ）の学説体系という、  
駿馬を操る知識を持っている  
不断の努力と精進の力により、乗馬の技に秀でて、  
この恐ろしい絶壁の道（行為と煩惱）から救われることを願っている

15

〔自性が空であるこの〈母〉を遠くまで〕探し求める必要はない  
〔この〈母〉は、〕探し求める自分と共にいるからである  
〔縁起する事物を〕真実と見て固執してはならず、それは偽りだからである  
しかし偽り〔の存在〕を否定してはならず、〔勝義においては〕それは真実だからである  
〔世俗の言説においては存在するのだから〕断滅でもなく、  
〔勝義においては存在しないので〕恒常でもないのだから、  
二つの極端を離れてゆっくり休息してよいのである

16

〔自性が空である〕〈母〉を〔直接〕見ることはなくても、単なる名前によって、  
長い間見失っていた恩深き〈父〉〔なる縁起〕と〈母〉〔なる空性〕が、  
あたかも目の前にいるかのごとく現れた  
恩深きナーガールジュナ父子（ナーガールジュナとアーリヤデーヴァ）よ、  
ありがとうございます！  
恩深きジェ・ツオンカパよ、ありがとうございます！  
〔私に中観の見解を説いて下さった〕恩深き〔私の〕ラマよ、ありがとうございます！  
その恩返しの方法として、〔空の自性である〕〈母〉を念じて供養いたします

17

不生であり、言説では表現できない年老いた〈母〉が、  
智慧という幼い〈息子〉と同時に出会い、  
普賢菩薩の行ないという大饗宴により、  
年老いた〈母〉である一切有情を、永遠の幸せ〔の境地〕に導くことができますように

18

エーマーラー、（ああ、）ロールペードルジェよ！  
アーオーラー、喜びの踊りを踊れ！  
オーナーラー、（ああ、）今この場所で、  
アーホーヤー、三宝に供養しよう！

奥付：著者の結びの言葉

「母を認識するというこだまの音の調べ」と言われるこの著作は、偉大なる中観の見解に特別な熱望を持つチャンキャ・ロールペードルジェが奇跡を起こされた究極の聖地である五台山で説かれた。筆記者は比丘のゲレク・ナムカーである。  
善あれ！

【日本語試訳：マリア・リンチェン 2021年2月】